

2017/12/24

## 「闇の中に光を見た」

### ■人の闇とは何か

「やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。」（イザヤ 9:2）

これは、クリスマスを預言した有名な御言葉です。闇の中に輝く光、この光こそ、イエス・キリストです。

人間にとっての闇というと、多くの人々が死を想像するものです。しかし、実際はそうではありません。私たちを苦しめる最大の苦しみは、人を愛せないことなのです。

私たちは、いつ訪れるかわからない死に、日々おびえているわけではありません。それよりも、私たちが直面している苦しみは、人との関わりです。家族同士、愛し合って生きていきたいと願っているのに、それができず、怒ったり、憎んだりしてしまう、あるいは、人が自分をどう思っているか、周りの人の反応に怒りや憎しみを感じてしまうことに、つらさを感じているのです。

それらの苦しみの中で、最も強い力は憎しみです。その憎しみは、人との比較から始まります。私たちは、人と自分を比べて、嫉妬したり、怒りを覚えたり、憎しみを抱くことで、自分自身を苦しめているのです。

たとえ永遠に生きることができても、この問題が解決できなければ、苦しみが永遠に続くこととなります。もしそうなれば、死が、愛せない苦しみ、憎しみを終わらせる唯一の希望になるのです。ですから、人にとって最大の闇は、死ではなく、愛せないことなのです。

### ■愛せない理由

なぜ私たちは、人を自由に愛することができないのでしょうか。それは、できるはずのことができないという不完全さのためです。私たちの魂は、本来の人間の姿を知っています。それは、神のいのちによって造られた完全な姿です。永遠に生きることができ、自由に生きることができる姿です。ところが、今の私たちの現実には、その姿とはまったくかけ離れてしまっています。そのために、その現実を受け入れることができず、愛せないのです。

「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。」（ヨハネ 1:1-3）

「神は言葉である」ということは、神のいのちによって造られた私たちは、言葉という土台の上に建てられたということです。なぜ人間だけが言葉を持っているのか、それは私たちが、

言葉である神のいのちを持っているからです。

今も私たちは、言葉を通して、理想的な自分を思い描くことができ、平和、永遠、愛や夢を思い描くことができます。それは、神がそのような方だからです。誰であっても、知らないことを求めることはできません。私たちが理想や感動を求める理由は、神がそういうお方だからであり、神という土台の上に建てられた私たちの魂が神を知っているからです。人が、自由な自分を見出そうと願い求めるのは、神が私たちの中におられるからです。神は、言葉となって、私たちに働きかけておられるのです。

ところが、神様が働きかけておられる理想と、自分の現実とが、あまりにも違うために、私たちは現実の不完全な自分を受け入れられません。そのために、自分はこうあるべきだ、こうでなければならないと、人は苦しんでいるのです。たとえば、悪いことをしたら心が痛むのも、本来あるべき自分の姿と現実が違うからです。私たちが不完全な自分が赦せず、完全な自分になることを求めています。そして、それは同時に、不完全な人を受け入れることができないというメッセージにもなるのです。これが人を苦しめているのです。

人を愛せないのは、自分を愛せないからです。完全でない自分を受け入れられないために完全になろうとしているので、完全でない人を愛することができないのです。

私たちが目指す完全な自分とは、要するに、人から良く思われるようになるということです。私たちは、人に受け入れられることによって、自分を受け入れようとしています。だから、人から良く思われると安心するのです。

誰もが「○○のようになればいいな」と憧れを持つのは、今の自分は受け入れられない、つまり、自分のことが嫌いだということの表れです。誰もが憧れの自分をめざして生きようとするのですが、やがて、その期待に到底応えられないことに気づいてしまいます。すると、人というものは、ますます反抗し、ますます自分が愛せなくなるのです。「生きていても意味がない」と、不完全な自分を否定したり、人を否定したりするのはそのためです。

## ■自分を受容する方法

私たちの苦しみは、自分を愛せないことから始まっています。ですから、この問題の解決は、不完全な自分を受け入れるしかありません。私たちが自分を愛せないのは、神という完全な方を知っており、そのように生きることができないからです。しかし、たとえあなたが完全になっても、あなたを嫌いだと言う人は必ずいます。イエス・キリストですら、この世では彼を憎む人がいたのです。統計的に、どんな人でも、その人のことを嫌いな人が3割おり、反対にその人を好きだと言う人も3割います。ですから、嫌われてもいい、不完全なままでいいと、良く思われたい自分をそのまま受け入れる勇気を持たない限り、あなたはつらさからは解放されません。

自分を受容するしか解決方法がない、哲学・心理学もこの結論に到達し、20世紀に入ってから、どうやったら自分を受容できるかという学問が急速に発展し、カウンセリングが発展するようになりました。その結果、どんなに頑張っても自分の力では自分を受容できない、第三者が受容してあげるしかないということがわかりました。第三者が不完全なままであな

たを受容してくれなければ、あなたは自分を受容することができないというのです。そこで、カウンセリングは、第三者があなたを受容することに徹します。こうして、人間のつらさ、苦しみを解こうとしているのです。

しかし、カウンセリングにも限界があり、人は人をどうしても受容しきれないという壁にぶつかってしまいました。そのために、カウンセラー自身が病気になってしまうケースも多くあります。結局、人は人を受容できず、裁いてしまうのです。ありのままを受容したいと願うのに、だんだん腹が立ってくるのです。親が子を受容したいと願っても同じことが起こります。これが人間の限界なのです。

自分を受け入れることができないために、人を受け入れることができない……これが人の闇です。人を愛するためには、自分を受け入れるしかなく、自分を受け入れるためには、誰かに自分を受け入れてもらうしかない、ここまでわかっているのに、誰が受け入れてくれるのかがわからないのです。

## ■あなたを不完全なままで受け入れる方

さて、今から 2000 年前に私たちを不完全なままで受け入れてくれる方が現れました。その方がイエス・キリストです。この方に出会い、人びとは闇の中に光を見たのです。

「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」(ヨハネ 1:4-5)

イエス・キリストは、不完全な者をありのままに受け入れられました。それは、聖書のいたるところに記されています。

イエス・キリストは、姦淫の現場で捕まった女性を受け入れました。当時、姦淫はもっとも忌むべき罪の一つであり、彼女を受け入れようなどと考える人は誰ひとりなく、誰もが、こんな女は石で打って殺すのが当然だと思っていました。しかし、イエス様が「この中で、罪を犯したことがない者が初めに石を投げなさい。」と言われると、そこから一人去り、二人去り、結局誰もいなくなってしまったのです。そしてイエス様は、「私もあなたを裁かない。安心して帰りなさい。」と、一言も責めずに彼女を受け入れました。

また、ある時は、取税人のザアカイに声をおかけになりました。取税人とは、不当に金を取り立て、高利で金を貸すという、今でいうやくざのような存在です。当然、誰も取税人と交わったり、食事をしたりはしません。ところがイエス様は、「あなたの家に泊めてもらうね」と言って、彼の家に行き、共に食事をなさいました。これを見た多くの人は、つまずきましたが、ザアカイ自身は、自分が悪いことをしていると知っていたので、こんな私でも受け入れてくれると知って感動し、イエス様に罪を告白して、立ち直っていったのです。

イエス様は、ご自身が十字架に架かる時、イエス様を見捨てて逃げてしまった弟子達のこと、一言も裁かないで受け入れられました。さらに、自分を殺そうとしている人達のために、十字架の上でこのように祈りました。「父よ、彼らを赦して下さい。彼らは何をしている

のかわからないのです。」

イエス・キリストは、幾度となく、次のように語っておられます。

「だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。」(ヨハネ 12:47)

イエス様は、たとえ、私たちが神のことばに従わなくても、決して裁きません。なぜなら、あなたを救うため、受け入れるために、この世に来られたからです。イエス様は、この地上で、本当にそれを貫き通しました。こうして人々は、こんな不完全な私でも受け入れてくれる方がいると知ったのです。

そしてイエス様は、これが本当の愛であることを知ってもらうために、十字架に架されました。イエス様は、あなたが自分でも受け入れられなかったあなた自身を、いのちをかけて受け入れて下さいました。それが十字架です。これが私たちに光を教えてくれ、私たちは、この方こそ、闇に輝く光だと知ったのです。それは、私たちが自分を受け入れられるようになるという光だったのです。

## ■闇の中に輝く光

あなたを苦しめているもの、それは、あなた自身が自分を赦せないということです。しかし、イエス様は、あなたを受け入れ、あなたを愛すると言っておられます。その方を知る時、闇の中に光が輝いたのです。不完全な自分を、神がそのまま受け入れてくれているということを知ると、自分自身でも不完全な自分を受け入れられるようになります。そして、周りの不完全な人を受け入れられるようになっていきます。

イエス様があなたを受け入れると言っておられるのは、あなたがイエス様のいのちという土台の上に造られた存在だからです。あなた自身がどう思おうとも、あなたが生まれた時から、イエス・キリストがあなたを背負っておられるのです。私たちは、自分の土台が何かを知りませんが、イエス様は知っておられます。イエス・キリストご自身が、あなたのいのちの土台であり、あなたが生まれた時から、あなたを受け入れ、あなたを支えてきたお方なのです。

私たちは、自分を受け入れてくれる方を知らずに、完全になったら自分を受け入れられると思いついて生きてきました。しかし、完全になろうとすることでは、自分のことも他人のことも受け入れられることはありません。自分を愛し、人を愛そうと、がんばればがんばるほど、闇は深くなっていきます。あなたが生まれた時からあなたを不完全なままで受け入れ、愛しておられるイエス様を知ることによってのみ、自分をありのままに受け入れることができるようになり、不完全な人々を愛することができるようになるのです。こうして私たちは、裁き合うのではなく、受け入れ合うように変わっていきます。これが、愛せないという苦しみから私たちを解放する唯一の道であり、闇の中に輝く光なのです。